

埼玉地本

各地本だより

第48回定期大会開催!

重転埼玉 第48回定期大

東京地本



7月豪雨においては日本各地で多くの河川が氾濫、土砂崩れが発生し、それにより多くの犠牲者が出てしまつた事に先ずはお悔やみを申し上げますと共に、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。この関東も未だ梅雨明けの気配もなく連日の雨模様。天候に左右される

生コンには厳しい状況ではあります、熱中症の危険度も高まる時期ですので、組合員の皆様方におかれましては体調に留意し日々就方にあたつてください。

6月28日さいたま市にある「ときわ会館」で中央本部から白藤直樹と役員は全て再任となり、評議員として新たに鈴木凌一、佐藤由美、井下健、中野徹が選出されました。大会にて承認された運動方針に沿つて、埼玉田中央副委員長、太田中央書記長の出席を賜り開催いたしました。冒頭、コロナ対策としての中央としての取り組みなどを中心に各地本の状況なども踏まえ両氏にご挨拶をいただきました。埼玉地本としてはコロナ対策の要請行動を中心にお願いしながら、引

地本の拡大・発展のため頑張つて参りますので、これからもご指導ご鞭撻のほどお願ひいたします。最後に労供概況ですが、6月は非常事態宣言解除後に需要が急増し、未供給が発生してしまった日も出るなど配車に苦労していましたが、7月になり天候不順が影響し需要は少し落ち込んでいるように感じられます。コロナの影響で収入が激減しているものの命と暮らしを守る兵士事が必要なのだ。

一方、緊急事態宣言解除以後、経済活動を重視する安倍政権はコロナ禍の対応に指針を示すところなくG.O.T.O.キヤンペーンを進めた。多くの知事が感染者の増加に繋がると危惧される中、関東圏に止まらず

京都など各地での感染拡大も進行しているようだ。京都では祇園祭の巡行が中止になるなど、多くの夏まつりや花火大会が中止に追い込まれている。その最中に「G.O.T.O.キヤンペーン」という言葉が発表が続き、末を迎えていました。そこには梅雨明け前から「命に関わる暑さ」という言葉を送ります。これまで東京地本では東日本大震災やその後の被災地域への連絡対策が大問題でした。今年は雲りや雨の日が続き、比較的の低温の梅雨空の日々が続いています。そのお陰という語弊があるかも知れませんが、新型コロナ感染防止のマスク着用義務による熱中症多発という事態は今のこところ起こらずに済んでいます。

近畿圏の大阪府等で感染者が

会保険への転換をした企業がコロナ禍による事業不振を理由とし、組合員に自宅待機を命じたことで実質2日の就労に対し、駆け込み需要増に期待したいところです。

執行委員長 折井洋之

* * *

減している者からの組合加入の問い合わせも数多くあり、新規労働条件の向上をもつて組織拡大条件の向上をもつて組織拡大組合員の確保と同時に益前に繋げていくとした運動方針などを繋げています。

ただし、全会一致で承認決議され、盛會裡に終了いたしました。また、本大会は役員改選の年でもあり、定数内であったため無投票で以下の通りに確定しました。執行委員長・折井洋之、副執行委員長・黒須明、執行委員・関戸広大、会計監査・加藤直樹と役員は全て再任となり、評議員として新たに鈴木凌一、佐藤由美、井下健、中野徹が選出されました。大会にて承認されました。運動方針に沿つて、埼玉田中央副委員長、太田中央書記長の出席を賜り開催いたしました。冒頭、コロナ対策としての中央としての取り組みなどを中心に各地本の状況なども踏まえ両氏にご挨拶をいただきました。埼玉地本としてはコロナ対策の要請行動を中心にお願いしながら、引

うつらない」の徹底をしたい。

関西の概況であるが、梅雨入り後、6月の需要は天候に恵まれ、当日中止もなく高位に推移したが、7月は雨天が続く中、最終週で受給資格を確保する

ことが出来た。コロナ禍により

違う涉外活動や交渉で、今年は多忙を極めているが、労供事務の認知度を上げる契機とした

ことは、労働者供給事業を行

う者の方々の一方的な意思によつて、支給從属關係

供給事業の原則禁止の趣旨

として「労働者供給事業にお

いては、労働者供給事業を行

う者の方々の一方的な意思によつて、支給從属關係

供給事業の原則禁止の趣旨

として「労働者供給事業にお